

飛鳥時代、収穫の三%の租を納めた。その後も明治時代の地租改正まで、主に米を納めてきた。日本国憲法では、国民の三大義務として、納税の義務が定められた。平成元年に消費税が導入され、増税されてきた。

このように税は姿や量を変え、受け継がれてきた。

では、遠い未来「令和の税」は、どのように評価されるだろうか。

江戸時代と比較しよう。二百年の間、増税や減税を繰り返し、主に農民から徴収した。しかし、社会保障はほぼ武士のためのもので、「平等」とは言い難い状況だっただろう。

現在では、徴収された税金は、社会保障や治安を守るといった形で、私たちにかえてきているのだ。また、江戸時代と違い、現在の日本は、国債よりも国民への税金の利用を優先している。国の借金が増え続けているにも関わらず、学校に空調を付けたり、高齢者保障を充実させたりと、私たちがより豊かにしているのだ。そのために増税をして何が悪いのだろうか。私は、仕方がないことだと思う。

昔は、租や年貢が引き上げられる度に一揆が起こってきた。納めるだけで保障がないのだから当たり前だ。一方、現在で起きたらどうなのだろうか。デモ中に歩く道路は？ いっぱいに吸える空気は？ 死者がほとんどでないのはなぜか？ けが人が出たときに運んでくれる救急車は？ 私たちはもっと税金について学ぶ必要がある。貧困層は生活できなくなる？ いや、貧困層ほど助けてもらっている。裕福な人たちにとって累進課税は不平等？ いや、相対的に見れば統一するより平等だといえる。

このように、歴史的に見ても、私は現在の税金について大賛成だ。しかし、外国にはもっと素晴らしい制度があったり、反論できない意見を持つ反対者がいたりするかもしれない。しかし、それらのことについて、義務教育を終えつつある私は、何も知らない。税金について、学ぶ機会が少ないのだ。政治家や専門的に学んだ人は知っているかもしれないが、これから投票権を持つ人、あるいはすでに持っている人でも、税金に詳しくない人は多いだろう。

そのため、私は、義務教育を受けている私たちが率先して税金を学んだり、税金の教育の機会を増やしたりすべきだと考える。すでにほぼ全ての人が受けている義務教育の中で税金について学ぶ機会を増やすことは、個人個人の更なる学びにもつながるし、歴史的に対処を苦戦してきた「一揆」が、今起きることを防ぐよりもはるかに簡単なのだから。